

発行人 今村久美子 編集人 下重喜代

〒191-0041日野市南平2-56-10

Tel&Fax 042-591-0248

E-mail: csc-hino@angel.email.ne.jp <http://www.angel-hino.com/>

# Link

Linkは、わたしたちのNPOが市民と市民、市民と行政、市民と事業者、学校と市民、子どもと大人といった様々な人たちをリンク（Link：つなぐ）することを、そして心と心をつなぐことを目指しています



幼児環境教育のための「ムッレ教室リーダー養成講座」(5月21～22日)



プレゼンテーション・ショウ「2020年までに日本を変える」(6月20日)



「NPOサポーター懇親会」(7月3日)



「男女平等・福祉の先進国 北欧の女性たちのライフスタイル」(7月10日)

## 「かわせみ館」オープン!

えっ、ふれあい館に続いて「かわせみ館」も? 日野市に「かわせみ館」という環境情報センターがオープンしたこと、これがまず第一に伝えたいメッセージです。

新築の「多摩平の森ふれあい館」には立派な総合受付があり、NPO市民サポートセンター日野が受付業務を担っているけど、古い建物(旧女性センター)の「かわせみ館」にはない、「ふれあい館」はファミリー・サポート・センターの事務局もある複合施設なのに対し「かわせみ館」は環境に特化、などなど違いはたくさんありますが、市民との協働のシンボルとしてたちあがった「ふれあい館」に続くものです。

準備のときから市民や市民団体、事業者と話し合いを持ちながら、進めています。特に「NPO市民サポートセンター日野」には、かわせみ館オープン記念事業「プレゼンテーション・ショウ/2020年までに日本を変える」を共に担うなど、多大な協力をいただいています。

日野市環境情報センター「かわせみ館」は7月1日にオープンしました。準備会では市にお金がないのなら、私たちが壁紙を貼るなどやってみようか。みんなが気楽に集まれるところがいいね。最初から出来上がったものでなく、成長するイメージがほしい。壁面緑化などみんなで試したい。...情報についての話はもちろん、いろんな話ができました。担当する

### ● 日野市環境共生部長 萱嶋 信

職員やスタッフも「夢と希望」に燃えています。ぜひぜひご意見や要望、そしてお力をお寄せください。

6年前に109人の市民の方々と、日野市環境基本計画を市民参画でつくりました。そのとき、市民参画に情報の共有は不可欠ということをもっと感じました。市民の方々は、環境基本計画のなかで、市民へ良質な環境に関する情報を収集・提供するために、市が環境情報センターを設置するよう強く主張しています。

学校の空き教室を借りようか、統廃合した学校を利用できないか、いろいろな構想が浮かんで消え、浮かんで消え。ようやくオープンできました。玄関を入ると「おっ。」内装は市職員サポートチームの手作り。奥多摩の間伐材を腰板に波模様の土壁もなかなかモダン。壁面書架も間伐材という意気込みを感じてください。日野市緑化協会からは、内外の緑のアクセサリーをいただき、寄贈いただいた書籍も書棚に並び、まさにみんなの力の結晶という感じです。

8月5日(金)には市民会館大ホールでオープン記念公演ミュージカル「きらきら風の旅冒険」があります。1500円です。ぜひいらしてください。

(詳しくはNPO事務局長までお問合せを)



## 1

### 「ムッレ教室リーダー養成講座」 東京初の開催地となる

環境先進国として名だたるスウェーデンでは幼児からの環境教育が大変盛んです。その代表格が、自然の中での遊びを通して、自然と人の共生を学ぶ「ムッレ（森の妖精の意）教室」。10年前に日本に導入され、各地でその指導者を養成する「ムッレ教室リーダー養成講座」が開催され、知る人ぞ知る存在となるにつれ、東京での開催が求められてきました。

子育て支援事業「ファミリー・サポート・センター」を事業の大きな柱とする当NPOでは、次世代育成に貢献したいと、去る5月21日（土）～22日（日）に、東京で初めての養成講座を誘致開催致しました。募集15名の枠に、北は宮城県、南は宮崎県まで、日野市の職員4名を含む22名の方が参加され、お断りする方も何人か出る程の盛況ぶりでした。

会場となった日本野鳥の会「鳥と緑の国際センター」（日野市南平）では、研究員の成末雅子さんが2日間にわたりボランティアとして応援してください、他にも「ムッレ」を日本に紹介している日本野外生活推進協会から柏原政彦さんが、当NPOサポーターからは橋本邦子さんが裏方スタッフとして講座を支えてくださいました。この講座の様子は、日野ケーブルTVの「ウイークリー日野」でも紹介され、今でもホームページ上から動画として見ることができます。

#### 参加者の感想から（抜粋）

プログラムの予定をいただいた時から内容はとても楽しみにしていましたが、期待通りでとても参考になりました。自分自身の体を動かして体験しながら学べたので、頭だけでなく体でも覚えることができました。大人の私達でも身をもって、感じることの楽しさを実感できたので、子ども達の透んだ目はもっといろいろなものを発見できるのではないかと思います。講座の最中、大人であることを捨てきれなかった部分も多々ありましたが、子どもの視点を常に意識して行きたいと思います。

せっかくリーダー養成講座を受講したので、この後も、すでにムッレ教室を行っているリーダーの方のお手伝いをしながら、さらにリーダーになる為の経験を積める場をご紹介いただければと思います。せっかく学んだ事をうもれさせてしまう方も多いためと思います。教育実習ならぬリーダー実習のあっせんなどお願いします。



野外食ねじりパンづくり

参加者の目的意識が高く、お互いに刺激し合えて大変充実した講座となったと思います。短い時間で、ムッレの良さを理解でき、またムッレ教室への意欲も高まり、プログラムの組み立てがとてもよかったと思います。

私は初め、「草花や鳥についての知識を深めたい」と目標をたてましたが、生きもの名前や特性を知ることよりも、自然の循環について知ることの方がはるかに大切で、基礎的なことなのだ気づき、子どもたちにもそうしたいと考えを改めました。

この講座で出会った方たちは、本当にみんなステキで、様々な分野で活躍されている方の話を聞くことも、また勉強になることが多かったです。はやく子どもたちとムッレ教室を開きたいと思いました。

日野市における自然体験プログラムに反映できます。何か特別な遊び道具がなくても、草木だけで充分子ども達を遊ばせ、学ばせる事ができると考えが変わりました。草木の名前を知らなくても、自然体験はできるという事を知って素人としては勇気となりました。メッセージ性が強く感じられ、プログラムもとても素晴らしい構成になっていたため、参考にさせていただきます。ありがとうございました。できたら、日野市で毎年実施して欲しいと思います。

スウェーデンの教育方針「民主主義を大切に、皆に平等の権利を与える」という考え方が大きな学びでした。この考え方が遊び中にも生かされ、個人の意志を尊重することの大切さ、自分で考える自由、責任を感じました。

#### 次回講座 9月24日（土）～25日（日）開催決定

今回実施した講座の予想以上の反響に応え、今秋2回目の「ムッレ教室リーダー養成講座」を開催いたします。詳しくは当NPO事務局までお問合せ下さい。

受講料：20,000円（研修20時間、昼食2食・軽夕食1食・茶菓代含む）

#### 講師：高見豊さん（日本野外生活推進協会会長）より メッセージ

5月に行なわれた、東京ではじめてのムッレ教室リーダー養成講座は、保育園・幼稚園の関係者だけでなく、行政・企業・NPOなど様々な立場の方の参加を得て、互いが学びあえるすばらしい刺激的な講座となり、下重リーダーをはじめ、お世話いただいた皆様の熱意のおかげで大成功を収めることができました。

日本の首都、東京で育っていく子どもたちのことを考え、心身ともに健康で、人と自然を愛し、自然に配慮できる大人になってほしいと願って、9月に行なわれるリーダー養成講座にも大きな期待をいたしております。

## 2

### プレゼンテーション・ショー開催 「2020年までに日本を変える！」

当NPOプロデュース、日野市環境情報センター準備会主催により、この刺激的なプレゼンテーション・ショー（発表会）が6月20日午後7時から富士電機能力開発センターで開催されました。130人定員の大会議室には20脚ばかりの補助椅子が並び、市民の関心の高さが伺えました。

馬場弘融日野市長の挨拶に続いて、この日の主役であるGRI日本フォーラム（\*）の木内孝会長が挨拶に立ち、「今の日本が抱える社会問題を象徴する意味をもつ六つの字「災・逃・崩・隠・偽・軽」をあげ、私たちのひとり一人が、社会に責任を持ち、美しい緑と、安全で幸せに暮らせる社会を次世代に伝えなければならない。「聞いたことは忘れる、見たことは覚えているだけ、やったことは理解する」といわれるように、会場のみなさんも議論に参加していただき、これから展開するディベート方式の発表に対して、活発な意見交換をしていきましょう」と力強く呼びかけ、プレゼンテーション・ショーは始まりました。

発表者は、大阪から駆けつけて下さったという方もむくめてGRI日本フォーラムの精鋭約20人。三つのグループ「食糧と水・大気（温暖化）と生物多様性」、「エネルギーとその他資源」、「人口と暮らし・安

全な社会」に分かれて、それぞれが予測データに基づき、ポジティブな未来像を想定した場合と、ネガティブな未来像を想定した場合の発表を対面するような形でショー・アップし、それに対して反論・質問を入れたり、コメントを添えたりと、議論は白熱し、相当盛り上がりました。

限られた時間の中では、議論を日野の実態に合わせて掘り下げたり、対案を出したり、ということにまで及ばなかったのですが、「面白かったです！今度は日野市民や日野市にある企業によって、日野の未来像をこのような形で是非、やりたいですね」と嬉しい声が早速、届くなど、多くの学びを得た2時間となりました。

終了後の懇親会では、発表者のみなさんから、今後も出来るだけ支援をさせていただきます、交流を続けお互いに持続可能な社会に向けて頑張っていきたいと、ありがたいエールをいただきました。また、この会に市長、助役、部長をはじめ37名もの日野市職員に参加していただいたことは、当NPOが日野市とこれからの協働をすすめる上で大きな布石をうつことができました。

最後に、主催を担った日野市環境情報センターの責任者である環境共生部長嶋嶋信さんの熱意ある対応なしにはこの成功はあり得なかったことを、ご報告します。

## 3

## NPO応援団「サポーター」懇親会

この間、本紙を通して「サポーター募集」をよびかけたところ、約20名の方が応募してくださり、7月3日に顔合わせを兼ねた理事との懇親会を行いました。

当日は、Cafe Greenのコーヒーとケーキを賞味していただきながら、NPO活動を発展させるために貴重なご意見やご提案を頂き、また今後、新規事業に取り組む際などのご協力をお願いしました。良い活動をしていくためには良い人材が欠かせません。随時、サポーターとしてお力をいただける方を募集しておりますのでよろしくお願い致します。

## 4

## 講演会開催

男女平等・福祉の先進国  
「北欧の女性のライフスタイル」

去る7月10日(日)、当NPOプロデュースによる表題の講演が多摩平の森ふれあい館で開催されました。この催しは、地域の大学である実践女子短期大学生活福祉学科が主催し、運営を生活福祉学科「ジェンダーと福祉」学生実行委員会が担う形で行いました。当日は、後援の日野市から男女平等課の池田礼子さんがボランティアとして会場設営などを手助けくださり、同じく後援の多摩平自治会からは会長・事務局長が駆けつけエールを送ってくださるなど、地域のさまざまなセクター(短大・自治会・行政)と協働することが出来、NPOらしい地域協働の成果を出すことができました。

講師の伊藤正侑子さん(スカンジナビア政府観光局副局長)は、スライドやビデオによる最新情報を通して、男女格差(経済への参加度、雇用機会の均等性、政治的な決定権、教育の均等性、健康への配慮)が少ないことを比較する男女平等世界ランキングにおいて、常にトップの座を占めるスカンジナビア(デンマーク、ノルウェー、スウェーデン)の女性たちの活躍の背景にある福祉や男女平等政策を歯切れ良く解説。

戦後の経済成長時に女性の労働力が必要だったこと。その後、国は女性が仕事を続けやすい環境整備に動いたこと。子育て支援や高齢者福祉などの社会サービスを国民の大きな負担(税金)によって充実させてきたこと。その結果現在では、なんと、国民が納得して収入の約7割を税金として納めているという事実。その背景にある、すべての国民が必要な情報を共有できる徹底的な情報公開制度があり、子どもの頃からの教育を通して民主主義が国民の背骨に通っていて、地方分権も進んでおり、自治意識がしっかりしているという先進性を学びました。

最後に、スカンジナビアの職場の同僚から「日本人は将来貰えるかどうかかわからない年金を良く払っているね」とか、「日本男性は子育ての

## ファミリー・サポート・センターの輪を広げましょう

当NPOの活動の大きな柱である日野市ファミリー・サポート・センターは、NPOの前身である「日野市女性社会事業協会」時代から数えると、15年の歴史を誇っていますが、まだまだこの助け合い活動の良さが市民の間に浸透していません。

この日野市を大きな家族と捉えた「市民による市民のためのサービス事業」をよく知っていただくために、出前説明会を展開中です。自治会、子ども会、老人会など、ご希望のところがあれば、ご説明に伺いますので、ぜひ事務局までご連絡ください。

## 今後の予定

多摩平自治会夏祭り参加 8月28日(日)午後4時～8時頃まで

多摩平団地立替二期の引越しも一段落の夏休み最後の日曜日、緑の森に囲まれた団地で恒例の夏祭りが開催されます。多摩平団地に大変お世話になっている当NPOも、生ビールの売店を担当させていただくことになりました。会場は、団地二期建物周辺のかつての宮内庁御用林の面影を残す森の中。美しくリニューアルした団地の夏祭り、夕涼みがてらお出かけください。

講演会「成年後見人制度と老い」10月15日(土)午後2時～4時

会場：多摩平の森ふれあい館

講師：中山二基子(弁護士)

中山二基子さんは20年も前から、市民と共に「高齢化社会を考える市民会議」を立ち上げるなど、高齢者の側に立つ弁護士として知られています。高齢者をとりまく様々な問題の第一人者として講演やTV出演などでも活躍です。

主な著書：「老いじたくは財産管理から」(文藝春秋)、「老いじたく 成年後見制度と遺言」(文春新書)

楽しさを経験することなく、会社で夜遅くまで残業して可愛そうだね」と冷やかされているという話に、参加者一同が頷くと同時に、日本も地域から声をあげて変えていけば、より良い社会を実現できると確信しました。それにはまだまだ道のりは長く、学ぶことは多いということも。

## 参加者からの声

男女平等が、人々の幸せが、ものを持つことにあるのではなく、人々のそれぞれの自己実現にあることを根底にして初めて得られるものなのだとということがよく分かった。このことは環境問題や世界平和に対する取り組みにも通じることだと思う。欧米諸国の先進国やソ連・中国の社会主義国でもできなかったことが、なぜスカンジナビアで可能であったか、非常に興味をもった。(酒井 烈)

## 発表者からのメッセージ

岡村 幸代/ミニストップ(株)CA推進室 環境推進担当

見ず知らずの皆さまの前で発表することは初めてだったので、とても緊張していました。しかし、その緊張もディベート発表前まで。気がついた時には、すっかり吹っ飛んでいました。日野市民からも何名かの方に発表メンバーに加わっていただき、会場からは質問を受け、ポジティブかネガティブかのどちらかに挙手をしていただくうちに、皆さんと2020年の日本について一緒に考えている、という一体感を感じました。

これを機に、今までのワークグループだけでなく多くの人と2020年、将来の日本を考え話し合う輪があちらこちらで生まれていくのではないかと思います。私も日々の生活、仕事をしながらも、2020年に向かって考え、働きかけをしていきたいと改めて感じました。このような機会をいただきまして改めて感謝いたします。ありがとうございました。

## 参加者からのメッセージ

加藤 裕/日野自動車(株)環境部 EMS推進室

地球の将来に警鐘を鳴らし我々の危機感を煽るような情報が溢れています。こうした情報を正しく自分自身の問題として考えて、自ら行動を始めることは大変難しいことです。殆どの人が頭では理解しているもののついつい目の便利さ、快適さに負けて行動に移せないのでは

ないでしょうか？

このワークショップ形式のプレゼンテーションは、漠然とした環境問題に対して、「よし！出来ることからやってみよう」という気にさせる大変魅力的なものでした。身近な環境問題に対して、ポジティブ派とネガティブ派に分かれたパネリスト達の熱い討論を聞いているうちに、「それは違う」とか、「私はそのようには考えない」となど、自然に情報が整理されていき、問題に対する理解が深まっていきました。理解が深まると同時に「何かしなくちゃ」と行動する意欲がわいてきました。

また、木内座長の「一握りの献身的な市民が、世の中を変える」という言葉には大変勇気付けられました。地球の状況は深刻です。我々一人一人が、まず出来ることから、地道に行動することが、回りの人々を変え、日本を変え、世界を変える大きな一歩となり、このかけがえのない地球を我々の子孫に残すことが出来る唯一の手段であることを再認識しました。

\*GRI日本フォーラム GRI(Global Reporting Initiative)は、持続可能な社会の構築へむけて企業が何をなすべきかについて、ガイドラインを作成し、各国企業に大きな影響力をあたえているUNEP(国連環境計画)の公認機関です。GRI日本フォーラムは2002年に発足し、GRIガイドラインの日本語版を発行しているほか、シンポジウム、勉強会を開くなどして持続可能な社会へ向けて活発な活動しているNPOです。



アグロフォレストリー(森林農業)によるコーヒー栽培
~環境と暮らしと文化を支えるフェアトレード・コーヒー~

ウインドファームのコーヒーは、その多くがアグロフォレストリーという農法が、それを目指した農法で栽培されています。

「アグロフォレストリー」は、森林農法、森林栽培とも言われます。森林を残したまま、その間に多種の作物や樹木を植える栽培方法のことです。多種の作物を栽培するため、アグロフォレストリーの森からは、食料、薬材、木材、飼料、燃料、樹脂、繊維、木製品など数え切れないほど多くのものを得ることができます。

アグロフォレストリーによるコーヒー栽培では、平行して日陰樹やバナナ、オレンジなどの熱帯果樹、また野菜などの混作が行われています。この栽培方法は、コーヒーの木が森の中に分散していて作業も収穫も手間がかかりますが、土壌を豊かにし、病害虫の発生を防ぐため、農薬や化学肥料を使用せずに栽培することができるのです。

また、多品目栽培であるため、コーヒーが不作の場合でも他の作物で生活していける可能性が高く、より安定した経営をすることが可能になります。

場所によっては、アグロフォレストリーシステムをとっているところの方が、一般的な森林よりも生物多様性が豊かな場合もあります。アグロフォレストリーは、森林を守るという点で、地球温暖化防止の面からも非常に注目されている優れた農法なのです。

アグロフォレストリーでコーヒーを育てている地域には、多くの先住民族が暮らしていますが、森林を伐採し、農薬や化学肥料を多用する近代農法が広がるにつれ、先住民の文化も失われていきました。

つまり、森林農法によるコーヒー栽培は、人と人、人と自然、現代と未来世代とのつながりを大切にしてきた文化をも守っているのです。

Cafe Greenで提供されているフェアトレードのコーヒーは、ただ単に農薬や化学肥料を使わないだけでなく、森を守り、更に森を再生することに役立ち、それが地域に暮らす人々の生活や文化をも守っているのです。

平成16年度 特定非営利活動にかかる事業会計収支計算書
平成16年4月1日から平成17年3月31日まで

Table with 3 columns: Item, Amount (Unit: Yen), Total. Includes income and expense sections.

平成17年度 特定非営利活動にかかる事業会計収支予算書
平成17年4月1日から平成18年3月31日まで

Table with 3 columns: Item, Amount (Unit: Yen), Total. Includes income and expense sections.

編集後記

NPOがスタートして1年を経過しましたが、当初の予定以上の活動成果をあげることができましたのも会員の皆様のご支援のおかげです。今年度の会費振込み用紙を同封しますので、引き続きご支援をいただきたく、よろしくお願いいたします。

